

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 10 月 6 日

【事業所概要【事業所記入】】

| | | | |
|---------|---------------------|--------------|------------------|
| 事業所番号 | 3474400375 | | |
| 法人名 | 有限会社 かがやき | | |
| 事業所名 | かがやきホーム新湯野 | | |
| 所在地 | 広島県福山市神辺町大字新湯野19番地1 | | |
| | 電話番号 | 084-963-6555 | |
| 自己評価作成日 | 平成27年 8月21日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 27年 10 月 17 日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 みらい |
| 所在地 | 広島県福山市山手町1020番地3 |
| 訪問調査日 | 平成 27 年 9 月 17 日 |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの自尊心やプライドを傷つけないように、どんな状態になられても人としての尊厳を守り、その人らしく生活が出来、最期までかがやいた人生を送って頂けるケアに取り組んでいる。天然の木造、土壁の和風造りで吹き抜けて天窓のある平屋建てで、落ち着いた雰囲気の中で生活が出来、各居室にはトイレと洗面所を設置しているので、他の入居者に気兼ねなく自室でゆったりとした気持ちで排泄、処理が出来ており、いつも清潔で快適に過ごして頂いている。家族との信頼関係もあり、地域住民や有志や老人会、保育所、各方面のボランティアとの交流も盛んで、行事等にも気持ち良く協力して下さる。医療面でも主治医との信頼関係が出来ており、急変時の対応や重度化に成られても最期まで安心して穏やかに過ごせるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

市の北部に位置し、大型スーパーや保育所、病院等が近くにあり、利便性が良く住みやすい環境である。事業所は純和風日本建築造りとなっていて天然木のぬくもりが気持ちを穏やかに落ちついて過ごせる雰囲気の中で快適に過ごされている。また、居室から長く続いたウッドデッキに出る事ができ、歩行や外気に触れることで、機能維持や五感刺激にも繋げられる。ケア面においては個々の生活歴を細かく把握し、その人に添ったケアに努め、沢山の笑顔が見られる対応に心掛けると共に特に接遇に関しての指導が徹底され、個々を尊重し、その人の思いを大切にされた支援を実践されている。各居室には洗面、トイレが設置されプライバシーの配慮もできている。地域との繋がりも小学生の下校見守り隊に参加し、地域の方々とふれ合う事で顔見知りの関係が築かれ、地域貢献と地域資源の活用ができ、地域との関わりも構築され、協力体制が強化されている。医療面に於いても、運営者がかかりつけ医や協力医療機関への受診支援を柔軟に行う事でそれぞれの主治医との連携も密に図られ、緊急時や夜間等、24時間対応ができる体制となっている。利用者、家族も安心である。外出支援も家族と共にお花見に出かけたり、イベントにも参加してもらい家族との絆が途切れない様、協力を得ながら両者で利用者を支え合い信頼関係を築いている。また、ボランティアの受け入れも多く、楽しみと気分転換の機会を持ち、その人らしく一日を楽しく、大切にしたい時間を持つ様全職員が一丸となり日々取り組まれている。今年度、開設12年を迎えられ地域と共に歩まれ、その地になくってはならない事業所となっている。今後期待したい。

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

| 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | | 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | |
|----|---------------------------------------|-----------------------|--------------|----|---|-----------------------|--------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | | ①ほぼすべての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> | ①ほぼすべての家族と |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいの | | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③利用者の1/3くらいの | | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんど掴んでいない | | | | ④ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> | ①毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に一度程度ある | | | | ②数日に1回 |
| | | | ③たまにある | | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | | ①ほぼすべての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている | <input type="radio"/> | ①ほぼすべての利用者が | 66 | 職員は生き活きと働けている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 60 | 利用者は戸外の行きたい所へでかけている | | ①ほぼすべての利用者が | 67 | 職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> | ①ほぼすべての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼすべての利用者が | | | | |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | ④ほとんどない | | | | |

自己評価および外部評価結果

木ユニット・花ユニット共通

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者と一緒に毎朝唱和している。一緒に唱和することで、理念を認知して、職員同士共有し、実践に繋げている。 | 毎朝、利用者と共に唱和され、理念を基本とした支援を、日々確認しながら実践されている。全職員が常に共有し、ぶれのない統一した支援に取り組む様、周知されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 小学生の下校見守り隊に参加して、小学生や民生委員さん、老人会の方々、地域の子どもの会の方々顔見知りになれ、子供との触れ合いを大切に、地域の一員として交流している。 | 地域の清掃活動や行事等に参加すると共に下校時の見守り隊に利用者と共に参加している。又、ボランティアの受け入れも積極的にし、沢山の方々とのふれ合いも多く地域に溶け込み日常的に交流されている。近隣の保育所との交流もある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ホーム長がキャラバンメイトや見守り隊インストラクターで、地域の人や老人会、民生委員の役員の方々、入居者の家族の相談を受け、アドバイス等行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎の運営推進会議には入居者家族、民生委員、老人会長、包括支援センター、市職員、地域住民等の参加で、入居者状況や支援、行事等の報告、議題も元に意見やアドバイスをして頂いている。朝夕の申し送りに報告してサービス向上に活かしている。 | 家族をはじめ地域住民、地域の各役員の方々、行政、包括支援センター等の参加の下、現状や活動状況の報告をし、井戸端会議的な雰囲気でも多くの意見や助言が得られ有意義な会議となっている。会議の名前を輝き会とし、その時々を振り返り次に向けた取り組みへの話し合い等も行い参加者の意見をサービスに活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市からの情報をメールで受信している。運営推進会議に参加して頂いており、ホームの取り組みやサービスの内容等伝えて、其の都度アドバイスを頂いたり、電話等でもアドバイスが頂ける関係作りが出来ている。 | 運営推進会議への参加があり、会議の中で取り組みや状況等について詳細に伝え助言等が得られると共に疑問点等がある場合はその都度相談で関係ができています。又、包括主催の会議にも毎回参加し包括支援センターとの連携も築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は7:00から20:00まで、玄関内戸は9:00から17:00までは施錠しないで自由に出入り出来るようにしている。研修に参加した職員はミーティングで報告し、職員全員周知し、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。 | 外部研修に参加し、その資料を基にミーティングで研修を行い、禁止となる具体的な行為について正しく理解する様全職員に周知している。やもう得ない状況変化が起きた場合は家族の意見とその要因を職員で話し合い出来る限り、拘束をしない工夫と見守り中心の支援に努める様取り組まれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会に参加した職員はミーティングで報告し、全員虐待防止の意識を高めている。虐待はしないケアに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | セミナーに参加して、制度について学び、必要な人へ活用できることのアドバイスをを行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 不安や疑問点がないよう、理解や納得されるまで十分に説明や意見を傾聴しており、不安等を持たれないようしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヵ月毎の運営推進会議で入居者家族や外部の人の参加で意見、要望を聞ける機会を設けており、会議で出た意見等は朝夕の申し送りに提案して運営に活かしている。 | 家族の訪問が多くその都度、状況を報告する中で意見や要望等聞く様に努めている。又、運営推進会議の中でも聞く機会を持ち、その中での意見等は真摯に受け止め全職員に周知し、個々に対応すると共に運営にも反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや申し送りノート、気づきノートを活用したり、個人的にも職員と聴く機会を設けており、意見や提案を反映させている。 | 日々のケアの中で気づきがあれば、その都度聞き取るようにしている。また、定期的なミーティングの中でも意見や提案が出やすい雰囲気にも努め、その中での意見や提案はその場で解決する事もあり、常に職員の意見は大切に受け止め反映させている。個人面談の機会もある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の努力や実績、勤務状態等を把握し評価している。各自が向上心を持って働ける条件や働きやすい職場環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員の力量等を把握しており、一人ひとりに合った研修計画を作成し、参加機会を設けている。ホーム内での研修発表の場も設けて、各自が現場でトレーニングしながら発揮できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型介護事業所交流会に参加している。テーマに沿って各事業所の活動等の意見交換を行い、他事業所を参考にして、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前や入所後、連絡を密にし、本人が不安にならないよう耳を傾けながら、何でも話せる雰囲気作りや、安心して生活出来る信頼関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が抱えている不安や困っていること、要望等気軽に何でも言える、聴ける雰囲気作りや信頼関係作りに心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族が何を求めているのか、何を必要としているのかを傾聴し、見極めて、要望に沿った支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯干し、洗濯畳み、調理の下ごしらえ、お盆拭き、お絞作り等出来ることを見つけて、介護されるだけでなく、役割として一緒に行うことで、役に立っていると感じて頂きながら、共に生活する関係作りを築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りや信頼関係作りに努めており、レクリエーション、行事、お誕生日にも参加して頂いている。家族と一緒に過ごす時間を大切にし、移り変わる本人の状態を共に支える関係作りを築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りや信頼関係作りに努めており、面会時には一緒にお茶を飲んだり、家族や親戚と外出の機会を作って、馴染みの場所に出掛ける支援を行っている。 | 訪問し易い雰囲気づくりに努められ、家族や親戚の方の訪問が多く、家族と外出したり食事に行かれる事もあり、馴染みの方や場所等の関係継続ができる様、常に柔軟な支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の場所作りや入居者同士の趣味とか一緒に行えることを見つけて、職員を交えて入所者間の中もちをし、お互いが支え合えるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されて長期の入院時にはお見舞いに行き近況報告を尋ねている。亡くなられた入居者家族に買い物等でお会いした時には家族の心情を尋ねているが、退所後家族からの連絡は殆どなく、十分なフォローは出来ていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 何をしたいのか等思いや意向を其の都度傾聴している。本人の思いが伝わらない時には、家族に尋ねながら、本人の意向に添える支援に努めている。 | 表情や行動、また、一対一の支援の中での会話等から把握する様務めている。職員は利用者一人ひとりの生活歴を細かく把握し個々に添った支援に心掛けている。夜間、眠れない利用者とは何気ない会話の中から聞き取れることもあり、色んな場面で把握した思いは全職員に周知可能な限り対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今までの生活歴や暮らし、生活環境等を本人や家族に尋ねて、どのように生活をされていたか把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎朝バイタルチェックを行い、顔色や表情、食欲等で身体状況の良し悪しの観察力を培い、早期発見、早期対応に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎日の申し送りやミーティングでケアの気づき等を話し合い、家族の面会時に報告し尋ねて、モニタリングを行い、ケア会議時に提案して、本人が楽しく、自分らしく暮らせるよう無理なく現状に沿った介護計画を作っている。 | アセスメントやモニタリング、家族の要望を基に職員間でニーズや課題等について話し合い、それぞれの意見を反映させ、担当者会議で検討し個々に合わせた柔軟な計画を作成し、家族の承諾を得ている。モニタリングも定期的実施し、個々に沿った期間で見直しもされている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 身体状況、介護中のしぐさ、言葉、排泄の有無、食事や水分の摂取等の様子を時間と一緒に細かく個人記録に記入して、朝夕の申し送りや連絡ノート等活用して職員間で共有しており、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎日状況、状態の変化は殆ど無く、日々現状維持が保たれていても、高齢でもあり、どんな状況になるかもしれません。其の時々状態を見過ごすことなく、本人にとって既存のサービスが必要か否かを見極めて、柔軟な対応に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域や多方面のボランティアや、老人会、保育所等と幅広く交流が来ている。小学生の見守り隊参加で地域の一員として知って頂き、支え、支えられながら楽しく過ごされている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時、本人や家族が希望するかかりつけ医を尋ねており、希望ない時は相談の上、連携病院をかかりつけ医にしている。何でも相談出来、アドバイスが頂け、病状によっては入院や往診、電話対応でもして頂ける関係作りが来ている。 | 個々の希望のかかりつけ医で対応し、通院介助もされ、医師との連携が密に図られ、個々に沿った適切な医療が受けられ安心である。24時間対応もできる体制である。協力医療機関との関係も築かれている。歯科もかかりつけ医で対応し受診支援も柔軟にされている。結果についてもその都度報告し共有されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 朝、入浴時のバイタルチェックで変化をチェックしている。表情や顔色等でいつもの状態変化にも気を配っている。いつもと違う症状の時は看護師に伝え、早期発見、早期対応の支援を行っている。症状によってはすぐ受診している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 場所が変わっても不安無く治療に専念出来る様、定期的に面会に行き、本人の状態を看護師に尋ねて早い退院に向けての情報交換を行っている。日々の受診時には主治医と看護師とのコミュニケーションを大切にしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日ごろから重度化した時の有り方を相談している。重度化した時は早い内に主治医と家族、ホームなどでカンファレンスを行い看取りに向けての心構え等を勉強している。主治医や看護師の指示の下、ホームで出来ること、家族で出来ること等を話し合い、共に支え合う支援が行われている。 | 指針を作成し、利用開始時、説明はされている。主治医との連携もできている。状況変化が起きた場合は、その都度、家族、主治医、職員で話し合いをし、意思確認を行いながら、出来る事出来ないことを明確にし、三者で方針を共有し支援に取り組んでいる。家族の協力があり看取り体験もされた。看取り研修もマニュアルを基に実施されている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを元に、急変や事故発生時には、冷静に対処出来る様、看護師からの指導や実践力を身に付ける様に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域や家族の参加で、昼夜の避難訓練を年2回行い、ホーム内の構造や避難方法や経路を周知して貰っている。地域や家族、職員の連絡網を配布しており、救護者に的確な指示を出す訓練も行って、協力体制が整っている。 | 事業所の見取り図や避難経路、地域を始め、家族、職員の連絡網も作成し配布し、協力を得、年2回訓練をされている。又、居室のドアには、工夫された札をかけられ、避難出来たか否かがわかる様にされる等、速やかな対応ができる様取り組まれている。地域の方のアドバイスや質問などもあり、協力体制は万全である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応に心掛けて、プライドを傷つけない、プライバシーを損なわない支援に努めている。 | 個人情報管理、職員の守秘義務、倫理規定等の周知は徹底されている。個々の尊厳を大切に支援をされている。常に全職員がプライバシーに関する意識の維持を心掛ける様日々取り組まれ、個々に合わせた声かけをされている。接遇に関する研修も実例を基に研修されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 其の都度本人の思いや望みを傾聴して、本人の気持ちを大切に、選択肢を提示して、自分が出来る事を選んで頂けるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 決まりや時間等を優先することもあるが、職員のペースではなく、出来るだけ本人のペースを乱さない動作や声掛けで、思いに添った支援をするように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝の整容や受診時等の外出時には好みの服に着替えたり、男性は髭剃りをして、身だしなみを整える支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その人に合った食べ易い形態で食べて頂いている。家族や職員が持参した季節の食材を取り入れて、調理の仕方等を尋ねたり、皮むぎやゴマすり、味見等のお手伝いをして頂いている。食後は下膳やテーブル拭き、お盆拭き等のお手伝いをして下さっている。 | 季節の食材を取り入れ、個々に合わせた形態で、ランチ皿に盛り付けされたメニューを目で楽しみながら職員も同じテーブルで同じ物を食べながら、優しく食を促す声かけをされ楽しみの食事風景である。力量により、テーブル拭きや下膳、下ごしらえ等してもらい、張りのある支援に努められている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 健康チェック表に食事、水分量、個人記録にも食事の摂取量を記入して残食量も記入している。毎月体重測定で増減を把握しながら、食事の量等のバランスを考えて支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。義歯外しや装着、歯磨きは出来るだけ本人にして頂き、出来ないところをお手伝いしている。うがいや歯ブラシの使えない人はハミングッドで口腔ケアを行っている。義歯の人は夕食後洗浄液に漬けて清潔保持を保っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄のパターンや尿量を把握している。各々の居室にトイレがあるので、気兼ねなくゆっくり排泄出来るし、プライバシーも保っている。歩行の困難な人もトイレ誘導を行い、パッド等の軽減、自力排泄を促している。 | 居室に洗面所とトイレが完備されている為プライバシーが保たれゆっくり排泄できる。個々の排泄パターンで声かけされ日中はトイレ誘導に心掛け、出来るだけ今までの習慣を活かした支援に取り組まれている。トイレに座る事で機能維持にも繋げられると共に気持ち良く排泄できる。排便チェックもされ不穏にならない様務めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維の多い野菜やきのこ類、海藻類を取り入れたメニューを作っている。水分は色んな飲み物を用意し、一日1300ccを目標に勤めている。腸の蠕動運動を誘発する為に、ラジオ体操やリハビリ体操、歩行、腹部マッサージ等を行い、自力排便出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日や時間帯はあらかじめ決めていたが、入浴日でも希望者や排泄で汚染された人は入って頂いている。拒否の人は時間をずらしてタイミングを見て入浴して頂いている。湯加減も希望に添って温度調節している。 | 週3回の入浴支援となっている。時間帯も決められているが、その日の希望で柔軟に支援されている。楽しみの入浴となる様、個々の思いに添った対応をされ、湯温等もその人に合わせている。拒否の場合は様々な工夫とタイミングを見ながら対応し清潔保持に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの体調に合わせて休んで頂き、体力温存に努めている。曜日を決めてベッドのマット、布団干し、シーツ交換、パジャマの洗濯を行い、いつも清潔で気持ち良く眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が一人ひとりの薬の効能や副作用等が分かるよう、個人記録に処方箋を付けている。誤薬が無いように、服薬時は名前を読んで何時の薬かを確認して服用している。口の中に残っていないかの確認もしている。急病で服薬が増えた時は申し送りして報告している。服薬での変化時は | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 役割を決めて、役に立っていると感じて頂き、感謝の言葉を伝えている。毎日のレクリエーションでは好きな歌だけでなく、嗜好を凝らして楽しい毎日が過ごせ、気分転換が図れるよう支援が行われている。行事がある時は練習や下準備をして楽しんでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりのその日の希望に添っての外出が難しい入居者が多くなった。日常的には行けないが、お花見の季節には家族参加で出掛けたり、公園で昼食をしている。近所の会館で催し物がある時は見学に出掛けている。家族や親戚等外出の機会を作って協力して下さっている。 | 老人会主催の映画鑑賞や近隣の保育所の行事、小学生の下校時の見守りたい等に参加し、外気に触れる機会を持つよう努められている。また、四季折々のお花見にも家族に協力してもらい出かけられ、五感刺激と気分転換を図ってもらい様取り組まれている。気候の良い日には体調を見ながら散歩に出かける事もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持つことの大切さは分かっているが、仕舞い忘れて物取られて、他の入居者や職員への不信感が出て、楽しい生活が出来なくなるので、家族の同意の下所持しないことにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を希望される時は掛けてお話をさせて頂いている。季節ごとの行事には折り紙を折って案内状の手紙に貼ったり、年賀状も干支の折り紙を貼って出している。家族からも季節ごとのはがきが届き、やり取りの支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは吹き抜けで天窓があり、高い天井で明るく開放的で、木造、土壁で不快な臭いも無く、廊下にはガラス瓦で自然の光が入り、温もりのある建物です。玄関内には家族と一緒に写真を飾り、玄関前には季節折々のお花や夏にはゴーヤを植え緑のカーテンを作り、季節感を味わって楽しみながら過ごせるようにしている。 | 玄関には季節を感じる装飾品もあり、家族と一諸の写真が飾られ、和風建築で木のぬくもりがあり落ちつく環境である。又、リビングダイニングも天井が高く圧迫感がなく、天窓から明るい陽射しが差し込み、不快な匂いもなく清潔に保たれている。畳スペースもあり、食事準備の音や匂いが五感刺激となると共に家庭的で生活感があり、穏やかに落ちついて過ごせる共有空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 寝転んだり、足を投げ出せる和室や、しのぎ易い季節にはウッドデッキで日向ぼっこが出来スペースを設けており、好きな場所で過ごせる工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の作品や家族写真、馴染みの物を置いて、居心地良く過ごせる居室にしている。各居室にトイレと洗面所を設置しているので、他の人に気兼ねなくゆっくりと排泄が出来る配慮もしている。 | 思い出の写真や馴染のタンス、お布団等が持ち込まれ、今までの生活環境とのギャップのない工夫でその人らしく落ちついて過ごせるよう配慮されている。各部屋にトイレ、洗面所がありプライバシーも保たれ清潔感のある居室となっている。。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歩行器や老人カー使用で歩いて貰ったり、一人で歩ける人は廊下や居室の手摺を利用して安全かつ安心して歩行が出来るようにしている。居室には花や木の名前のプレートや名前を張って分かるようにしている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 23 | 何がしたいか、何をしてほしいか、自己主張の出来る人出来ない人の思いに添って支援できているがもっと思いに添える時間を作る事は出来ないか。 | 一日のうち、入浴、排泄、食事、おやつレクリエーション以外に1対1の時間を5分間作る。 | 歩行訓練、外気浴、外周散歩、塗り絵等その時々で出来ることを行う。 | 1ヶ月 |
| 2 | 26 | サービス担当者会議では、ニーズや課題等が出て計画に反映されているが、アセスメント、モニタリングの不得意の職員がいる。 | 全職員がアセスメントから計画作成まで出来る。 | 定期的にあセスメント・モニタリングの書き方の研修、指導、計画の見直し等各自で行なって収集する。 | 6ヶ月 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。